

就活戦線 もう過熱

12月スタート前 「学業専念」程遠く

再来年の春に卒業する現・大学3年生の就職活動のスタートが、今年から2か月遅い12月となった。学生が学業に専念できる時間を増やそうと、経団連が採用活動に関する倫理憲章を改定して申し合わせたためだ。ところが就職活動の短期決戦化に焦りを感じ一部学生で就活塾は以前にも増して盛況となり、大学のサポート活動も前倒しされるなど、かえって戦線は過熱。「学業に専念」からはほど遠いのが実情だ。

焦る学生、塾は盛況

大学生の就活のスタートは従来、大半の企業で会社説明会の周知や開催が始まる10月。今年はその解禁が12月以降に繰り下がった。一方で、採用に直結する面接や筆記試験などの「選考活動」は例年通り年明けの4月から変わらない。学生からすると、就活期間が2か月短縮された格好だ。

「筆記試験の練習は12月までに終わらせないと間に合わないよ」「エントリーシートは結論から書いた方がいい、見出しを付けたりする工夫が必要」

10月下旬、就職活動を支援する「就活ゼミ」(東京都新宿区)の川前博代表(51)の声が、東京都渋谷区(51)の講堂に響いた。この日の講座は企業に提出するエントリーシートの書き方などを学ぶ内容で、集まった大学3年生ら9人は熱心にメモを取った。



エントリーシートの書き方などを学ぶ大学生たち(10月20日、東京・渋谷区)



日大3年の松瀬信寛さん(21)は「早めに動いてほかの学生をリードしたい」と話す。同ゼミに通う大学3年生は10月末時点で約115人で前年同期より約45人も増えた。川前代表は「活動期間が短くなったことに危機感を持つ学生は多い。この2か月間を勉学に充てる学生はごく一握りで、多くは12月に向けて準備を始めているのが実情だ」という。

厚生労働省によると2008年秋のリーマンショック以降、就職率は下落の一途で、今年3月に卒業した

大学生の就職率は91.0%と過去最低だった。来春卒の大学生も、東日本大震災や円高の影響で改善するかどうかは不透明な状況だ。学生の焦燥感を受けて、大学側の就職支援策も前のめり気味だ。

青山学院大では例年11月に実施していた卒業生による業界説明会を、9月に前倒し。早めに社会人の話を聞く機会を設け、就職活動に対する意識を高めてもらうことが狙いだ。

専修大でも今年、言葉遣いや身だしなみなどのビジネススマナシーを学ぶ講座を設け、10月中旬からスタート。同大就職部は「これまでは実際に企業説明会などに出席することで身についたが、今年は活動期間が短くなり、時間的余裕がない」と講座開設の理由を説明する。

また、多くの学生が頼りにする就職情報サイト「マイナビ」によると、就活期間が短くなることで12月以降に始まる企業の説明会の日程が立て込んでくることも予想される。マイナビ担当者は「どの説明会に参加するか12月になって迷わないために今のうちから業界研究などを行うことが必要になる」と、やはり早めの就活準備の重要性を説く。

「学業に専念」の狙い通りに進んでいない状況について、経団連は「就職活動の一部で過熱していることは承知している」と認めた上で、「改定の趣旨を学生や大学に理解してもらえるように引き続き努力したい」と話した。